

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572110104		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームたしろ(たけのこユニット)		
所在地	秋田県大館市岩瀬字上岩瀬上野35番地		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年度の事業計画は①家庭的な雰囲気の中で、可能な限りその有する能力に応じ自立した生活を営み、利用者の声が反映されるよう創意工夫し認知症ケアの充実を図る。②月1回の広報誌「かわら版」の発行、家族・ボランティア交流、保育園児との交流を通し、地域・家族に開かれた事業所を目指す。③「運営推進委員会」の設置により、事業所の更なる良好・健全な運営を図る。④防災計画を基に、夜間体制の確保・消防避難訓練等を実施し、長慶荘本体と連携し利用者の安全確保に万全を尽くす。⑤病気等の早期発見、早期対応に努めて健康的な生活の継続を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に覆われた静かな小高い場所にある。公共施設などもあり生活に豊かさをもたしている。同法人の事業所や地域とのつながりが厚く安心して暮らすことができる。利用者、職員の笑い声に溢れ、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの個性を大切に、自己決定の支援やそれまでのライフスタイルの尊重、馴染みのある暮らしや地域社会とのつながりを支えながら「その人らしい暮らし」を支えている。朝の申し送りは両ユニットが一緒に行い、職員は全利用者の状況を把握しており、ユニットの枠は関係なく、利用者と職員は行き来し、新たな馴染みの関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に理念を掲げて、意識して業務に就いている。	職員で話し合い、現状にあった理念に作り変えている。家族や地域とのつながりを大切にして、笑顔でその人らしく、いきいきと生活を送れるよう一人ひとりに寄り添ったケアを実践している。事務所に掲げ、朝の申し送りや日々のサービスの提供場面で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練やたんぽ会に地域の方に参加して頂いたり、毎月かわら版を届けたり、地域に散歩に出かけて交流している。隣接する保育園とも交流している。	避難訓練には地域の常会長や消防団長など地域住民も参加されている。実施後、たんぽ会を行いホームや利用者の理解を深めている。隣接する保育園の園庭が目の前にあり、子供たちの声やふれあいが利用者を笑顔にしている。毎月朗読の会や大正琴サークルなどボランティアが訪問されている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や毎月地域の常会長さんへかわら版を届けてホームの様子を伝えて理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見等をホームに持ち帰り、実践している。(避難経路が目立つように発色テープの貼用等)	常会長、市、知見を有する人、家族、施設関係者等が参加し多角的な話し合いが行われている。避難経路の階段をスロープに変更したり、雪道でもわかりやすいようにホーム近くの沿道のスノーポールに発色テープを貼用、また利用者がくつろげるようホールにソファを設置するなど、活発に会議で話し合われた意見がサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月かわら版を届けている。また、入居申し込み待機者の報告をしている。また、運営推進会議に出席して頂き協力関係を築いている。	運営推進会議や電話、直接役所に出向き、実情やケアサービスの取り組みなど伝えている。包括支援センター主催の「認知症」についての家族介護者教室では、地域の専門職として講師を務めるなど相互的な関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会に参加して身体拘束せず、利用者が落ち着いた環境で生活できるように支援している。玄関のチャイムや離床センサーを使用して事故が起きないように、かつ、身体拘束しないケアをしている。	マニュアルが整備されている。玄関にチャイムを設置しているが、制止することなく見守りをし安全の確保を行っている。玄関は夜間のみ施錠している。法人の合同学習会に参加し、参加できない職員には職員会議で伝えたり資料の回覧をし理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	在宅グループ学習会で学ぶ機会がある。職員同士で声を掛け合い、虐待することのないように努めている。また、言葉使いにも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	在宅グループ学習会で学ぶ機会がある。また、利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や料金改正時は本人や家族に説明して理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	茶話会を行い、入居者から意見を聞いたり、面会時にはご家族からの意見を聞いたりしている。また、ケアプラン発行時にはご家族からの要望等を聞くようにしている。また、運営推進会議時にはご家族の意見を聞いて、介護に生かすようにしている。	玄関に苦情受付ボックスを設置している。運営推進会議や面会時、家族から意見を引き出す努力をしている。またユニットごとの茶話会で、利用者から食べたい物や行きたい場所など話しやすい雰囲気作りには留意している。家族からカリウムの数値が低いので、バナナを食べさせてほしいなど、出された意見、要望などはケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には施設長や施設長補佐も参加して、意見交換している。また、毎日の申し送り等では職員の意見を聞いて、一緒に考えている。	職員会議や朝の申し送りなど、利用者との関わりから生まれる職員の気付きなどを話し合い、勤務体制やケアの見直しにつなげている。年に一度施設長と個人面談があり、個人的なことも含めて話し合える機会がある。	4月より勤務体制の変更を予定している。各ユニット利用者のADLやニーズが異なり、それぞれの課題を抱えている。現場職員の意見も反映させながら、よりよいサービスの向上に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職務遂行能力考課(自己評価)を行い、その後、施設長と個人面談を行い、職員が向上心を持って働ける環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や学習会に参加して、受講者は研修報告書をまとめ、職員皆が向上できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他のグループホームと会議を行ったり、研修に参加してサービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前には、本人やご家族に面談して、入居しても安心して生活できるように家での環境を見て、入居しても家での環境をできるだけ継続できるように、使い慣れた食器や布団、タンス等を持ってきて頂いたり、配置を変えずに、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族の要望を丁寧に聞き、入居しても継続できるように努力している。また、何かあったときは電話して相談して、一緒に検討するようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	だまっこ作りやタケノコ、ミズの皮むき等の季節や行事食等は教えて頂きながら、一緒に作ったりして楽しく生活できるようにしている。また、洗濯物たたみや食器拭き、掃除等できることはして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に何かあったときはご家族に連絡をとり、通院したり、聞いたりして一緒に支えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた病院や美容院を継続している。ご家族との外出も自由にして頂いている。	友人や元同僚などの面会がある。行きつけの美容院、通っていた小学校や自宅近辺のドライブ、墓参り、また外食や買い物などに家族と外出される利用者もいる。入所時や面会時に家族から情報を収集し、一人ひとりの歴史や、体験、こだわり、習慣を理解し、回想することで、自尊感情を高め、楽しみや活性化につなげている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席は気の合う者同士にしたり、ラジオ体操や風船バレーは皆で行ったり、職員が中に入って入居者同士がかかわり、楽しく生活できるように支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設(特養等)に移ることが多いので、行事等で行ったときには話をしたり、また、長期入院になったときはご家族から相談を受けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに寄り添い、できる限り希望に添えるように努力している。(食事のメニューや好む飲み物等。)	利用者の言葉や思いを把握するため傾聴を心掛けている。把握が難しい利用者には、思いを表出できるよう聞き方を工夫したり筆談などを行なっている。「田んぼを見に行かなければいけない」「帰りたい」など一人ひとりのその日の状態を申し送りしながら、相談し対応している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時には生活様式や趣味、生活歴等を聞いて、入居しても継続できるように努めている。また、入居後も本人から生活歴を聞いて希望に添える様努力している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康状態をチェックして、本人の思いやリズムに合わせた生活ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開いて、職員同士で話し合い介護計画を作成している。また、ご家族にはケアプラン発行時に意見を聞いてケアの充実を図っている。	定期的、また変化のある時には見直しをしている。利用者担当が月毎の日誌記録をまとめたり、サービス担当者会議への参加や、介護計画の見直しにも関わる。家族から認知症の症状軽減のための作業の希望があり、手紙や塗り絵など趣味活動を取り入れた例もあり、家族からの意見が介護計画に反映されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子で変化があったときは日誌の入力し、また申し送りで伝達し、月の最後には本人の状態をまとめとしてケース記録に入力して、介護計画の見直しにつなげている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム隣接の保育園児が遊ぶ様子や、散歩に出て畑仕事をしている方と話をしたり、外部からボランティアとして、大正琴サークルや朗読の会、また長慶荘での行事に参加して楽しく過ごして頂けるようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を変更せずに継続している。健康診断を行い、異常に早期発見に努めている。	通院が可能な場所であればかかりつけ医の継続支援の対応をしている。定期的に健康診断や予防接種などを行い、健康管理をしている。家族への通院の結果報告、また状況によっては事前に報告相談、同行してもらうこともある。個人ごとの通院記録のほか、日誌で受診結果を共有している。薬局は利用者ごとに希望の薬局があり、それぞれの薬局と連携して、薬の情報などを把握している。薬は薬局が届けてくれることもある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護師)に相談したり、施設長、補佐、長慶荘の看護師、かかりつけ医の看護師に相談している。		

自己	外部	項目	グループホームたしろ(たけのこユニット)	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
				次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、病院の看護師や医師、また必要時には相談室の方、家族と話し合い、退院後も安心して生活できるようにしている。	
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調が重度化した時は、家族の方に状態を伝えて、病院や法人内他施設(特養等)の申し込みをして頂き、他施設へ繋げている。	看取りの事例はない。家族と話し合い、対応の方針を共有しながらできることを行っている。法人グループの施設や病院など家族の意向に添って空白の時間を作らないよう、安心して状況変化に対応できるよう支援している。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での学習会や緊急時の対応マニュアルに沿って対応している。	
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、年に1回は消防署員や地域住民にも参加して頂き、協力体制を築いている。緊急連絡網に地域住民の方も入っている。	日中、夜間想定訓練の他、新しい職員の配置などにより随時、反復訓練を行っている。法人グループや地域との支援体制を整備している。備蓄品の食糧は定期的に変更し管理している。地理的に、水害も想定されるため、実際に避難した実績から課題を再確認している。安全を確保するための各種災害に備えた対策を講じている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意あいながら、入居者の人格を尊重した言葉かけに努めている。	一人ひとりの尊厳を支え、声掛けに対して徹底した指導を行い留意している。「かわら版(事業所だより)」の発行にあたり、同意書を得ながら、写真の掲載など意向に添ってプライバシーの保護にあっている。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人に寄り添い、何でも話せるように配慮し、本人の希望なども引き出し、食べ物、衣服など自己決定できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人一人に寄り添い、その人らしく生活できるように、また本人のペースに合わせて心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には本人の希望の衣服を選んで頂いたり、定期的に理髪店の方に来て頂き、散髪し、身だしなみを整えている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその人の好みのメニューにしたり、旬な野菜、山菜を入れたり、郷土料理と一緒に作って食べたり、片づけたりしている。	もやしのひげ取り、山菜の皮むき、だまっこ作りなど利用者個々の力を活かしながら一緒に行っている。畑で取れた物、近所の方の差し入れなど旬の食材や新鮮な物を採り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえたメニューを工夫している。体重減少や疾病などにより配慮が必要な場合は、法人グループの栄養士に相談している。誕生日のメニューや、パンとご飯の選択食など楽しめるよう工夫している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分摂取量を記録して、摂取量が少ないときは栄養補助食品や好みのものを食べて頂き栄養補給に努めている。むせやすい人にはトミを付けたり、義歯ののない人はお粥と刻み食を食べて頂き、事故のないように努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗滌やうがい等声がけ、誘導している。就寝前には義歯洗浄剤につけて清潔に保つようにしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けて、時間で声がけ、誘導してトイレで排泄できるようにしている。	排泄パターンを把握し、そわそわしたり、咳払いなどその人なりのサインに合わせて、さり気なく場所を明示するなど、一人ひとりの排泄の困難な要因を把握し支援している。個別の支援により、リハビリパンツから布パンツに移行したケースもある。トイレに行きたがらない場合には時間をおいて声かけをするなど、本人のタイミングに合わせている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、牛乳や豆乳等その人にあった飲料に変えたり、運動したりして、水分摂取量を多くしたりして自然排便を促している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	以前は本人希望時に入浴をした時もあったが、見届け不十分で事故になった事もあり、現在は時間、曜日は決めている。本人の体調により、無理のないような入浴をしている。	利用者の健康状態を確認しながら、週3回入浴している。入浴剤を使用したり、好みの湯温に合わせている。本人の状態に応じて、個浴や仲の良い方同士と一緒に入浴するなど楽しめるよう工夫している。体調不良時や入浴を嫌がる場合も無理強いはせず、清拭や足浴など出来ることを行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、自室やホールのソファー等で自由に休息して頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬ファイルを活用して、薬の作用、副作用を理解して、状態変化したときは医師に繋げて、通院時相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の生活、趣味等を聞いて入居しても続けられるように(家事手伝い、裁縫、花の水かけ、畑仕事等)を行い、楽しく過ごして頂けるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの楽しみ(桜、バラ、藤、後葉等)に外出したり、家族と一緒に敬老会をホームから出て行ったりしている。また、希望があれば、買い物に行ったりしている。	全員で外出する事は難しくなったが、誕生日など家族へも連絡し個々の外出支援を行っている。希望によりドライブや買い物、季節に応じた外出、日々の散歩など、刺激となり気分転換につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫に預かり管理しているが、ご自分で管理している人もいます。希望があれば、いつでも使ってもらっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があれば、随時対応している。手紙も家族から来たときは返信を出したりしている。年に2回、絵手紙教室を開き、暑中見舞いと年賀状を作り、家族に送っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の掃除は毎日行い清潔に努め、玄関先やホールには季節を感じて頂けるように毎月飾りつけている。居室やトイレ等は24時間換気して清潔に努めている。	吹き抜けと天窗からのやさしい採光で開放的で明るい空間となっている。温かさが感じられる壁や、木目が感じられる床材、神棚など和の落ち着いた家庭的な雰囲気となっている。加湿器や清浄機にて快適な環境を整えている。随所に畳敷きの縁台やソファを設置し、それぞれがその時の気分で過ごせる場所がある。装飾品や季節の花、日めくりカレンダーや大きなカレンダーが時の見当識に働きかけている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置いて、自由にくつろいで頂けるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた布団や衣装ケースを持参して頂き、また、自宅にいた時とあまり環境を変えないようにして入居しても安心して過ごして頂けるようにしている。	自宅と環境を変えないように、自宅の状況に合わせてベッドの位置を配置している。畳ベッドを事業所で備えているが、状態や希望により介護ベッドや布団など個々に合ったものを使用している。自宅で使用していた家具やテレビ、家族で飾ったりなど、その人らしい居室作りをしていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を自分で干せるように、自室に物干しを置いたり、タンスの整理ができるようにネームを付いたり、トイレの場所に名前を付いたりして、できることはして頂き、また一緒に行うようにしている。		